

# 放射線診断科

Diagnostic Radiology



## 概要

画像診断は体の外からではわからない体内の状態を画像化することにより、**できるだけ苦痛なく体内の状態を観察し、病変を見つける診断法**です。様々な画像診断法の中から患者さんの症状や疑われる疾患に適した検査機器を用い検査します。撮影された画像は各領域の画像診断専門医師が読影することで、**より迅速で確かな診断**を行っています。また画像診断の技術を利用して画像支援下に診断や治療を行う**Interventional Radiology (IVR)**も積極的に行っています。

放射線診断科は主に内科や外科など各診療科の依頼により検査・治療を行うことが多いため、各診療科との合同カンファレンスなどを積極的に行い病変の診断や治療方針の決定に貢献させていただいています。

## 特徴・特色

### 画像診断

画像診断の中でも当科では主に**X線検査、消化管造影検査、CT検査(コンピューター断層撮影装置)、MRI検査(磁気共鳴画像検査)、核医学検査の診断**を行っております。各症例の画像は少なくとも2名の放射線科医が読影し、診断を行っております。それでも診断が難しい症例に対してはカンファレンスで提示し、複数の専門医師で評価を行い、より正確な診断を提供しています。その診断結果は、皆様が受診された各診療科の医師の手にて報告書のかたちで届けられ、治療方針に役立てられています。

### Interventional Radiology (IVR)

IVRとは、画像診断(X線透視装置、超音波、CT、MRIなど)を施行しながら、主にカテーテル技術、または穿刺術を利用した診断または治療のことです。「画像下治療」や「血管内治療」とも呼ばれています。**すなわち体内の状態をリアルタイムに観察しながら、カテーテルや針を血管や肺などの臓器にすすめ、より患者さんに苦痛が少ない方法で病変部の診断や治療**を行います。

### 核医学内用療法

当院では、バセドウ病とがんの骨転移のアイソトープ治療を行っています。1回の内服(バセドウ病の治療)や静脈注射(骨転移の治療)だけで治療効果が得られます。どちらも、外来で行い、入院の必要はありません。

## 診療実績(2024年度)

年間件数	
X線撮影	80,312件
CT	28,628件
MRI	12,327件
透視撮影	2,178件
核医学検査	2,985件
核医学内用療法	18件

### ■ 血管造影・IVR総数 348件

血管系(血管造影、血管塞栓術、他) 206件		非血管系(針生検、ドレナージ、他) 142件	
血管内・心内遺物に対する回収術	2件	CTガイド下針生検(穿刺吸引を含む)	23件
出血病態に対する止血術(ステントグラフト留置含む)	71件	CTガイド下ドレナージ	19件
動脈瘤・動静脈瘻に対する塞栓術	4件	CTガイド下マーキング	4件
超音波ガイド下での中心静脈リザーバ留置術、カテーテル挿入	121件	MRI-US融合画像ガイド下前立腺標的生検	96件
副腎静脈サンプリング	4件		
術前塞栓	4件		



あつしくんから  
ひとこと

CT検査やMRI検査などの画像診断は、血液検査とならび重要な検査です。院内で行われる画像検査とその診断を引き受けています。当院では放射線診断医が夜間・休日の救急患者にも24時間体制で対応していますので、安心してお任せ下さい。

放射線診断科